

ズームアップ

ふじ



第十回全国ジュニアゲートボール大会に、県代表として富士市の四チームが出場、「岳陽クラブ」が三位に入賞

ゲートボールは、一チーム五人の対抗形式で、番号の書かれた赤と白の十個のボールをステイックで操り、三つのゲートを通過させて、最後にゴールポールに当てる競技です。

体力的な負担が少ないことから、お年寄りを中心に親しまれてきましたが、富士市では、十年前から子ども会などを通じて小中学生にも普及し、現在はお年寄り子どもたちの交流の場にもなっています。

八月には『第十回全国ジュニアゲートボール大会』が埼玉県で開催され、全国から八十八チームが参加しました。中でも、富士市のチームは十年連続で出場を果たし、これまでで最多の四チーム（高校男子「スノーファルコン」、高校女子「吉原高校ゲートボール同好会」、小・中学生の「岳陽クラブ」と「清流クラブ」）が、各県の強豪たちと熱戦を繰り広げました。

大会を振り返り、各チームの選手の皆さんは「緊張して、い



4チームの選手と指導者の皆さん。
「ゲートボール大好き！
来年も全国大会に行くぞ。
目指すは優勝！」



そばには、いつも心強い仲間

つもどおりのプレーができないこともありました。でも、仲間が大声で励ましてくれたので、頑張れました！」と、チームワークのよさを語ってくれました。指導者の皆さんは、「地区の練習に子どもたちが加わるようになってから、全体の雰囲気よくなったんですよ。今回、全国のチームを見て改めて実感したのは、「富士市の子どもは、あいさつがしっかりできて礼儀正しい」ということです。大人のほうから子どもからチームプレーの楽しさや、礼儀を教わっています」と、笑顔で語ってくれました。

中央病院の医師数を確保してほしい



市では市長への手紙を設け、市政についてご提言やご意見をいただいています。今回は、中央病院の医師数の減少についてお手紙をいただきましたので、ご紹介いたします。

「市長への手紙」から

富士市立中央病院の医師数が減少していると聞き、富士市の医療の今後に不安を感じます。市民の健康のために、医師を確保するための働きかけをお願いします。（四十代男性ほか）

【市長からの回答】

ご意見ありがとうございます。現在、新卒医師数の減少と臨床研修制度の必修化などに伴う大病院への医師の引き揚げにより、全国的に医師数が減少しています。中央病院でも、消化器内科を担当する常勤医師が昨年の四月から不在となり、呼吸器内科の常勤医師四人が大学へ引き揚げるといふ通知があるなど、極めて深刻な事態となってきました。

医師の確保対策については、これまで、市民の皆さんによりよい医療を提供していくため

の最も重要な課題として、全診療科において取り組んできています。担当部局はもとより、私も大学の医局への訪問や、関係者への交渉・要請を行うなど、あらゆる方策を実施しているところです。

このような中、一部の診療科では新たな大学との連携ができ、ことし四月には眼科医師二人を、七月には皮膚科医師二人を採用することができました。さらに呼吸器内科についても、交渉を続けた結果、引き続き二人の医師を確保できる見込みとなりました。

市民の皆さんには、ご心配をおかけしていますが、今後とも最大限の努力をしていきますので、ご理解をお願いします。

問い合わせ

中央病院総務課

☎五二一―一三三―
☎五一―七〇七七